

# 進化戯曲

作・黒井エミ

\*登場人物\*

男 A

B

C

D

女 E

F

G

H

## 進化0 前説

アナウンス 本日は私見感第二回仮定公演「進化戯曲」にお越しいただきありがとうございます。

開演に先立ちまして、お客様にお願いしたい点がございます。(携帯などの注意を

行う)

ご協力をお願い申し上げます。

また、当公演、目潰しで公演がスタートすることになっております。

あらかじめご了承くださいませ。

それではまもなく開演です。

五秒後に目潰しから始まります。

5、4、3、2、1、

暗転。

## 進化1 暗転

全員 めーつぶしっ！

男 A って

男 B 行って！

男 C 何するんだよ

女E っつて  
女F 目潰しするって言って  
女G いたじゃん？  
男D え、その目潰しなの？  
男AD 物理的なの？  
女H え、そうだけど？  
女EH 他に何かある？  
男CB 照明的なの？  
女EF 証明できない。  
女GH てか真っ暗だね。  
男A お前が  
BCE F 目潰し  
男D したからな。  
男B 何も見えない。  
女F もうすぐ慣れるよ。  
女EH 暗順応。  
男AC 単細胞。  
女G うるさいなー。  
女E ああ言えばこう言う。  
女H 子供かっつての。  
男D アレ買っつてー。  
女F 子供かっつて。  
男A 子供は売ってないよ？  
女FG 知ってるよ。  
男B 何人の予定？  
女E えー、まだわからない。  
男C 家庭築くのか。  
 大人になったもんだなー。  
女E みんな大人になっていくんだよ。  
女F みんな大人を担っていくんだよ。  
女G その過程はどうあれ。  
男D 家族はどうあれ？  
女H そーそー、薄情だね。  
男C 大人になってハクジョウウになって。  
女F そーいやあんたあの子とは？  
男ABC D 別に。

女H 白状しろ。  
男A いいだろ別に。  
女G いいでしょ別に。  
男B 振られたんだよ。  
女E (爆笑)。  
男C 爆笑するなよ。  
男D 薄情だなー。  
女H ごめんごめん。  
女EF 一人になっちゃたんだ。  
男A そうだよ。  
男BC みんなひとり担っていくんだよ。  
女G 私は違うけどね。  
男D はいはい。  
女E あ、  
男A 何？  
女H 星。  
男B うん。  
女F 綺麗だよ。  
男C 真っ暗だもんな。  
女G ねえ。  
全員 ねえ、あの光のどこかにさ。

少しずつ照明がついていき、役者の姿が浮かび上がる。

客席の通路から舞台上まで八人がポーズをとって一列に並んでいる。

客席側最端の役者が四つん這いになっていて、舞台側の役者になるにつれて次第に起き上がっていく。

それはまるで猿から人への進化の図のよう。  
暗転。

## 進化2 高速道路

男A 本州から九州に向かう高速道路。  
山口県に入ったあたりから全く灯りがなくなります。  
両側を山に囲まれているので街の明かりも見えなくて、車のヘッドライトだけが唯一の明かりです。

ふと後ろを確認するとそこには何もなくて、ただただ真っ暗。本当に、今まで通ってきた道すらなかったかのように、真っ暗。

### 進化3 メール

携帯のプッシュ音。

男Bが携帯を開く。その明かりだけが男Bを照らす。

男Bは誰かからのメールを読んでいるようだ。

男B　ほんとだね。ミキ君がメールくれなかったら気付かなかった。ありがとう。

男B、メールを書いて送る。

女Fが携帯を開く。

ラジオの音。「Fly me to the moon」が流れている

女F　いえいえ、たまたま教えてやろうと思っただけだし。

(ラジオをちらっと見て返事を書いて送る)

男B　ちようど今ラジオで月の歌流れてるよ。

女F　今外だから聞けないや。

男B　外なんだ、風邪ひかないようにね。

女F　夏だよ(笑)

男B　そっか(笑)

珍しいよね、メールくれるの。

男D　メールの相手は同じクラスの女の子でした。

別に好きとかそういうことはなくて、単純にメールしやすい相手でした。

このころの僕には意味もなく件名の「Re」を増やしていくのがとても素敵なことに思えて、

短い文章でメールを何度も送りました。

### 進化4 ドウヨウ

男A C 女E Gが歌を歌っている。

(歌) 電車の窓から見える赤い屋根は

小さい頃僕

## 進化5 車内

車の走行音。

男Dと女Hがボックスに座っている。男Dは運転をしているようだ。

女H あとどれくらい？

男D さあ。

女H さあって。

男D このカーナビ当てにならないから。

女H むだじゃん。

男D そろそろ代わってよ。

女H じゃあ次のサービスエリアでね。

男D さっきも同じこと言って結局代わらなかったらろ。

女H そうだっけ？

男D 記憶力ゼロか。

女H 過去は振り返らない主義なんだ。

男D はいはい。

間

女H、男Dの二の腕をつまむ。

男D おい！

女H あ、ごめん。

男D 死にたいのか。

女H いや、肉付いたなーと思って。

男D 悪かったな。

女H 昔はガリガリだったのにね。

男D 成長したんです。

女H 小学生の頃とか、まさかこうなるとは思ってたなかつたな。

男D あ。

女H ん？

男D ああ、うん。

女H え、何？

男D 別に。

女H 言えよ、気になるじゃん。  
男D いや、小学校と言えば、青山君でいたじゃん。  
女H 誰？  
男D うん。姉貴の知らない人。  
女H え、じゃあなんで言ったの？  
男D だから言うのやめたんじゃん。  
女H ・・・うん、正論だ。  
男D いたんだよ、青山君という頭のいい子がさ。

## 進化6 青山

ヒグラシの声。

男C 読書感想文なにで書く？  
男A 大泥棒ホッツェンプロッツ。  
男C ああ、名前長いもんね。  
男A うん、大魔法使いペテロジリウス・ツワツケルマンとか名前だけで一行いけるからな、あれ。  
男C たしか警部補の名前も長いよね。  
男A デインペルモーザー氏もそこそこだけど、主人公一人もセットで書いたらけっこういく。  
男C 登場人物の名前並べたら終わるだろうって。あとはあとがき真似する。  
男A あとがき真似するよね。  
男C するする。  
男A 青山は何で書くの？  
男C モモかな。  
男A え、あの分厚いやつ？  
男C そーそー。  
男A やっぱ青山は違うな。ノーベル賞とるんだもんな。  
男C まあね。  
男A あれってどんな話なの？  
男C んー、時間泥棒の話。  
灰色の男たちってやつらが、時間を節約したほうが得だって言って、時間を節約させて、その節約した時間を奪ってしまうって話。で、その灰色の男たちに立ち向かうのがモモって女の子。  
男A 難しそうだな。  
男C でも面白いよ。

## 進化7 夜

男Bと女Hが並んで寝転んでいる。  
少し離れた位置で女Eが立っている。

女E それはある夜の出来事でした。私がまだ幼く、何も知らなかったころ。

私の家族は夜みんなで雑魚寝をしていました。

私は寝苦しさを覚え目を覚まします。

すると、誰かの手があるうことかまだ未成熟の私の身体を這うように、這いずり回るように、撫でるのです。

その手の持ち主が父であることにしばらくして気づきました。

正確にはしばらくしてその事実を受け止めることが出来ました。

それはそれは、なんといいのやら。暗いくらい闇の中で。

私は声を上げることもできませんでした。何も見えません。目の前が真っ暗でした。なんといいのやら、ただただ、そこにあるのは、ものすつごく、恐怖。